

問1 関東地方の産業について述べた次の文のうち、京浜工業地帯の説明として最も適切なものはどれか。 (2022年 青森県公立入試 類似)

1. 東京都と神奈川県にまたがり、東京湾臨海部の埋立地などに多くの工場が立地している。
2. 千葉県の東京湾岸に広がり、石油化学コンビナートや製鉄所が集中している。
3. 内陸部の高速道路沿いに工業団地が造成され、機械工業が発達している。
4. 愛知県を中心として広がり、自動車産業が盛んで日本最大の製造品出荷額を誇る。

問2 日本の都道府県別の統計において、年間の日照時間が2000時間を超えて長いにもかかわらず、住宅用太陽光発電機器の設置数が5万件未満と、日照時間に比例せず少なくなっている地域があります。このように、日照条件が良いにもかかわらず設置数が伸び悩む主な要因として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 秋田県公立入試 類似)

1. 人口密度が高く、マンションなどの集合住宅や借家の割合が高いという住宅事情があるため
2. 平地が少なく山地が多いため、住宅の日常を確保することが困難であるため
3. 土地の価格が安く、個人住宅よりも大規模なメガソーラーの建設が優先されているため
4. 製造業が盛んな地域であり、家庭用よりも工場向けの電力供給が優先されているため

問3 つくば市の人口統計において、昼間人口を夜間人口に割って100を掛けた「昼夜間人口比率」が100%前後で推移している理由として、都市の特徴から考察した説明として最も適切なものはどれですか。 (2024年 神奈川県公立入試 類似)

1. 都心へ通勤する住民が極端に多いため、夜間人口が昼間人口を常に上回る典型的なベッドタウンとなっているから
2. 研究機関や大学が集積して市外からの通勤・通学者が多い一方で、鉄道網の整備により居住する住民も増えているから
3. 市中心部には商業施設や官公庁のみが集中し、周辺部に居住者が分散するドーナツ化現象が顕著に現れているから
4. 鉄道開業以降、市外への通勤者と市外からの通勤者の双方が激減し、市内だけで経済活動が完結するようになったから

問4 関東平野の地形的な特徴とその土地利用について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2026年 和歌山県公立入試 類似)

1. 九州南部に見られるシラス台地と同様の構造を持ち、大規模な畜産を主目的とした土地利用が全域でなされている。
2. 関東平野を構成する赤土の層は、かつて海底であった場所が隆起してできたものであり、塩分を多く含んでいる。
3. 利根川などの河川沿いの低地には火山灰が厚く堆積しているため、水持ちが悪く稲作には全く適していない。
4. 火山灰が堆積して形成された水はけの良い台地が広がっており、古くから畑作や平地林として利用されてきた。

問5 日本では、政治・経済・文化などの諸機能が東京都に高度に集積し、周辺地域から人口や資本が過度に流入する現象が続いています。地方との格差や、大規模災害時のリスク分散の観点から課題となっているこの現象を何と呼びますか。 (2025年 奈良県公立入試 類似)

1. ドーナツ化現象
2. 東京一極集中
3. スプロール現象
4. ストロー現象

問6 1970年代初頭から2019年にかけての関東地方における工業出荷額の統計的な変化について、正しく述べているものはどれですか。 (2022年 東京都公立入試 類似)

1. 産業構造の変化により繊維工業の出荷額が急増し、2019年には地域全体の出荷額の約2割強を占めるようになった
2. 輸送用機械の出荷額は1971年時点がピークであり、2019年にかけて出荷額・割合ともに減少を続けている
3. 総出荷額が約3.8兆円から約30.5兆円へと大幅に増大し、中でも輸送用機械の占める割合が全体の2割を超えるまで上昇した
4. 総出荷額は横ばいであるが、航空機産業の出荷額が約6.7兆円に達し、輸送用機械に代わる基幹産業となった

問7 千葉県浦安市付近の地形図を用いた地域調査において、河川沿いに位置する「建物が密集し、細い路地が入り組んだ古い商家の建物が残る地区」を調査対象としました。このような地区の景観や土地利用に関する説明として、最も適切なものはどれですか。 (2022年 東京都公立入試 類似)

1. 高度経済成長期以降に海を埋め立てて造成された工業地帯
2. 古くからの町並みや伝統的な商業活動の面影を残す地区
3. 近年、大規模な再開発によって計画的に整備された新市街地
4. 等高線が密に描かれる、傾斜地の森林を切り開いた住宅地

問8 鎌倉市に見られる「亀ヶ谷坂切通」のような「切通」が、この地域の歴史において重要な役割を果たした背景と、地形図から読み取れる特徴について述べた文として、最も適切なものを選びなさい。 (2023年 東京都公立入試 類似)

1. 三方を山に囲まれた鎌倉の防衛機能を保ちつつ、外部との交通を確保するために山を削って造られたため、断面図で見ると等高線が一点に集中し、道の中央で標高が最も高くなる。
2. 敵の侵入を遅らせるために複雑な迷路状の堀として造られたため、断面図で見ると等高線が一点に集中し、全区間で標高差がない。
3. 海沿いの平坦な土地を拡大するための埋め立て資材を採掘した跡地を道として利用したため、周辺の住宅地よりも標高が低くなっている。
4. 大規模な耕作地を確保するために山の斜面を階段状に削って造られたため、出発地点から到着地点まで標高が階段状に変化する。

問9 18世紀初頭の日本の農業生産において、全体としては田の面積が畑の面積を上回る中で、例外的に畑の面積の方が広がった地域はどこですか。 (2026年 大阪府公立入試 類似)

1. 関東地方
2. 九州地方
3. 東北地方
4. 近畿地方

問10 関東地方に位置する茨城県は、野菜の産出額が約1890億円という非常に高い数値を記録しています。このように、巨大な消費地である東京などの首都圏への近さを活かし、新鮮な野菜を大量に供給する農業の形態を何と呼びますか。 (2019年 三重県公立入試 類似)

1. 施設園芸
2. 促成栽培
3. 抑制栽培
4. 近郊農業

問11 東京湾の西岸から北岸の臨海部に位置し、東京都から神奈川県横浜市、川崎市などを中心に広がる工業地帯の名称はどれか。 (2022年 青森県公立入試 類似)

1. 京葉工業地域
2. 京浜工業地帯
3. 北関東工業地域
4. 中京工業地帯

問12 栃木県の産業について、足尾銅山のような歴史的背景を持つ鉱業から、現代の工業へとどのように変化しましたか。現在の栃木県の工業的特徴を説明したものとして最も適切なものを選んでください。 (2023年 京都府公立入試 類似)

1. 渡良瀬川の水力を利用したアルミニウム精錬が、県を代表する製造業となっている。
2. 東北自動車道などの高速道路沿いに、自動車や電気機器などの機械工業の工場が多く進出している。
3. 広大な平野を活かし、製鉄所や石油化学コンビナートが立ち並ぶ重化学工業地帯を形成している。
4. 輸出入向けの絹織物を中心とした軽工業が、現在も県全体の製造品出荷額の大部分を占めている。

問13 日本の都道府県の統計において、人口密度が1平方キロメートルあたり1,000人を超え、人口が増加傾向にある県があります。この県は、大規模な工業地域を背景とした高い製造品出荷額を誇ると同時に、全国でも上位の野菜産出額を記録しているのが特徴です。この県はどこですか。 (2024年 新潟県公立入試 類似)

1. 宮城県
2. 秋田県
3. 千葉県
4. 神奈川県

答え合わせ・解説

問1	答え 1 東京都と神奈川県にまたがり、東京湾臨海部の埋立地などに多くの工場が立地している。	京浜工業地帯は、その名の通り「東京」と「横浜（神奈川）」を中心とする工業地帯である。選択肢にある千葉県側は京葉工業地域、内陸部は北関東工業地域、愛知県周辺は中京工業地帯の説明であるため、それぞれの位置関係を正しく把握しておく必要がある。
問2	答え 1 人口密度が高く、マンションなどの集合住宅や借家の割合が高いという住宅事情があるため	太陽光発電の設置数は通常、日照時間の長さに比例して増加する傾向がありますが、神奈川県などの大都市圏では特有の事情が見られます。これらの地域は人口密度が極めて高く、持ち家の一戸建てよりも集合住宅や借家住まいの世帯比率が高いため、個々の住宅への太陽光パネル設置が物理的・権利的に難しく、日照条件の良さが設置数に直結しにくい構造になっています。
問3	答え 2 研究機関や大学が集積して市外からの通勤・通学者が多い一方で、鉄道網の整備により居住する住民も増えているから	昼夜間人口比率が100%に近いという状態は、その地域で生活する人（夜間人口）と、仕事や通学で滞在する人（昼間人口）のバランスが取れていることを示します。つくば市は筑波研究学園都市として多くの研究機関や大学を擁するため、市外からの流入（昼間人口の増加要因）が多いのが特徴です。同時に、鉄道網の整備によって居住地としての人気も高く、夜間人口も増加し続けているため、単なるベッドタウン（100%を大きく下回る傾向）とは異なる独自の人口構造を維持しています。
問4	答え 4 火山灰が堆積して形成された水はけの良い台地が広がっており、古くから畑作や平地林として利用されてきた。	関東平野は、利根川などの河川沿いに見られる「低地」と、火山灰が降り積もってきた「台地（関東ローム層）」に分けられます。関東ロームは水はけが良すぎるため、かつては水利の確保が難しく水田には適しませんでした。そのため、台地の上では麦や野菜などの畑作が行われたり、薪や肥料を得るための平地林（雑木林）として利用されたりしてきた歴史があります。
問5	答え 2 東京一極集中	東京都に日本の主要な機能が集中している状態を指します。選択肢にある「ドーナツ化現象」は、地価の高騰などにより都心の居住人口が減少し、郊外の人口が増える現象を指すため、機能そのものが一点に集まるこの現象とは区別して理解する必要があります。
問6	答え 3 総出荷額が約3.8兆円から約30.5兆円へと大幅に増大し、中でも輸送用機械の占める割合が全体の2割を超えるまで上昇した	関東地方の工業は、約50年間で総出荷額が10倍近くに拡大しました。1971年時点では輸送用機械の割合は8.5%に過ぎませんでしたが、2019年には22.1%（約6.7兆円）へと急成長しており、自動車産業などが地域の経済を牽引する重要な役割を担うようになっています。
問7	答え 2 古くからの町並みや伝統的な商業活動の面影を残す地区	地形図上で建物が密集し、路地が複雑に入り組んでいる様子は、都市計画が進む以前の古い町並みが維持されていることを示唆しています。浦安市においては、旧町役場周辺などに漁師町としての伝統を残す商店街や古い建物が見られ、これらは直線的な道路が並ぶ埋立地（新市街地）の景観とは明確に区別されます。地形図の読図を通じて、その土地の歴史的な成り立ちを推察することが可能です。
問8	答え 1 三方を山に囲まれた鎌倉の防衛機能を保ちつつ、外部との交通を確保するために山を削って造られたため、道の中央で標高が最も高くなる。	鎌倉は北・東・西の三方を山（丘陵）に、南を海に囲まれた天然の要塞のような地形をしています。鎌倉幕府が置かれた際、軍事的な防衛力を維持しながら、物資の運搬や他地域との交流を行うために、山の尾根を切り開いて「切通」という道が作られました。地形図上では、山を越える場所を通るため、前後の地点に比べて切通の部分の標高が最も高い地点（ピーク）として表現されます。
問9	答え 1 関東地方	江戸時代中期の土地利用状況を地方別に比較すると、多くの地域で米を作るための「田」が優先的に確保されていましたが、関東地方だけは「畑」の面積の方が広がっていました。九州地方などで畑作が盛んなイメージを持つ受験生も多いですが、当時の統計上の面積比較において、畑が田を上回るという逆転現象が起きていたのは関東地方であるという点が重要な特徴です。
問10	答え 4 近郊農業	茨城県は広大な関東平野に位置し、高速道路網などを通じて大消費地である東京へ短時間で農産物を運ぶことができます。このように消費地のすぐ近くで新鮮な農作物を生産し供給する形態を近郊農業と呼びます。野菜は鮮度が重要視されるため、この立地条件は大きな強みとなります。
問11	答え 2 京浜工業地帯	東京の「京」と横浜の「浜」をとって名付けられた工業地帯であり、東京湾の西側に位置する。対岸の千葉県側に広がる京葉工業地域と混同しやすいので、県名や都市名（東京・神奈川・横浜・川崎）で区別することが重要である。
問12	答え 2 東北自動車道などの高速道路沿いに、自動車や電気機器などの機械工業の工場が多く進出している。	栃木県はかつて足尾銅山などの鉱業が盛んでしたが、現在は北関東工業地域の一部として工業が発展しています。特に、東北自動車道や北関東自動車道などの高速道路網が整備されたことにより、内陸部へのアクセスが向上したため、その沿線に広い用地を確保した自動車関連や電気機器などの機械工業の工場が数多く集まっているのが特徴です。
問13	答え 3 千葉県	千葉県は東京に隣接しており、人口密度が非常に高く増加傾向にあります。産業面では、東京湾沿いに広がる京葉工業地域による高い製造品出荷額と、大消費地に近い利点を活かした近郊農業による高い野菜産出額を両立しているのが大きな特徴です。一方、秋田県や宮城県は千葉県ほどの人口密度はなく、神奈川県は工業は極めて盛んですが、野菜産出額は千葉県の方が高い傾向にあります。